

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所
青少年課 青少年事業係

TEL 03-3880-5275 <http://www.a-shorenkyo.jp>

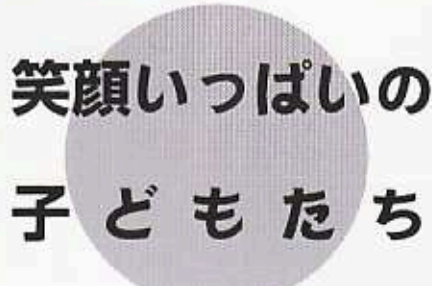
発行人 野辺 陽子

編集 調査広報部

大林 市川 小野田 高澤

高橋 手塚 田中 鈴木

川下 堀内 山岸 平石



足立区
少年団体連合協議会会長

野辺 陽子

♪笑顔 人の和♪の
メロディーに

軽快なリズムの前奏で始まる私たちの区歌。
私が初めて耳にしたのは、今から30年も前のこと。下の娘が足立区少年少女合唱団に入っており、成人の日のつどいに歌うというので、繰り返し練習をしていたのだ。足立区には区歌があるのだとその時に気がついた。私の生まれ育った中野区には、果たして区歌なるものがあつたのかどうか。少なくとも、私は聞いたことがなかったし、当然のことながら歌ったこともなかった。

平成18年の少連協の40周年の式典で区歌を歌うことになり、実行委員は歌詞を見ずに暗唱しようということにした。ご来賓の方がたは当然のように歌詞を見ながらの斉唱であった。ちよっぴり「どや」とでもいいたいような気持を感じてしまったのは私だけではなかったと思う。それ以来、入学式、卒業式、総会、周年式典などではもちろん、声をはり上げ歌っている。また、地少協の中には運動会の開会式などでも斉唱するところもある。

国歌を覚えていない人はまずないのと同じに、区民ならば誰もが空でうたいたいものだ。

最後に、区歌のいう「ふるさとわが足立」と思えるような足立区にしていかなければと強く思う。

少連協新年会開催

総務部長

元井 一壽

去る、一月十七日毎年恒例の少連協新年会が、区役所ビガールにて開催されました。

例年どおり織田総務部員の書いた表題・式次第が掲げられ、ステージの周りには後ほどビンゴの景品になる、きれいな花の鉢が並べられ開会を迎えました。

第一部は、加藤副会長の開会の辞から始まり、小野田書記、馬場常任理事の指揮のもと、区歌の斉

唱、会長挨拶と式次第を進めました。

今回は、足立区長の代理として、青木光夫教育委員会教育長をはじめ



▲村岡徳司子ども家庭部長



▲青木光夫教育長



足立区少年団体連合協議会平成25年新年会



▲北島一弘青少年委員会会長



▲手をつないで「青い山脈」を大合唱

め、大勢の健全育成団体代表の方々にご来賓としてお越しいただきました。第一部では会員の皆様と楽しくご歓談いただき、交流を深めてくださいました。

第二部では、少連協恒例のビンゴ大会を行い、全員景品をお持ち帰りいただきました。

終了間際には、これもまた好例になりました「青い山脈」を、全員で手をつなぎ合唱し、和やかな雰囲気の中、閉会をむかえることが出来ました。

ご参加いただきました皆様のご協力に感謝申し上げます。

常任理事研修会・懇親会

十二月五日（水）木曽路西新井店に於いて、常任理事研修会及び懇親会が開催されました。

講師に大谷博信教育委員会青少年課長を招いて「少連協のあるべき姿」というテーマで講演をしていただきました。その後、会食をしながら、参加した皆様方と有意義な時間をすごしました。



▲大谷課長のお話を熱心に聞く常任理事

午前対戦表

予選リーグ

Aブロック		A1.中央ファイブ(栗島地少協)	A2.第十四地少協(第十四地少協)	A3.西新井中央子供会連合(第五地少協)	A4.五色さくら(上沼田地少協)	勝数	得点	失点	差	順位
A1.中央ファイブ(栗島地少協)		×	12 - 11 11 - 12	×	8 - 11 11 - 12	1	51	59	▲ 8	3
A2.第十四地少協(第十四地少協)	◎			×	2 - 12 3 - 11	2	39	51	▲ 12	2
A3.西新井中央子供会連合(第五地少協)	◎	◎	12 - 2 11 - 3		12 - 3 11 - 2	3	68	34	▲ 34	1
A4.五色さくら(上沼田地少協)	×	×	3 - 8 3 - 8	×	2 - 12 3 - 11		47	61	▲ 14	4
勝敗		勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点

Bブロック		B1.クラブオキモト(駒地少協)	B2.洞江地少協	B3.西新井本町二丁目子供会A(第五地少協)	B4.バンビークラブ(鹿浜地少協)	勝数	得点	失点	差	順位
B1.クラブオキモト(駒地少協)		×	6 - 11 11 - 12	×	2 - 12 3 - 11		27	60	▲ 33	4
B2.洞江地少協	◎			×	3 - 12 4 - 10	1	29	57	▲ 28	3
B3.西新井本町二丁目子供会A(第五地少協)	◎	◎	12 - 3 11 - 2		3 - 8 3 - 8	2	65	31	▲ 34	2
B4.バンビークラブ(鹿浜地少協)	◎	◎	12 - 3 11 - 2	◎	11 - 10 11 - 10	3	60	33	▲ 27	1
勝敗		勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点

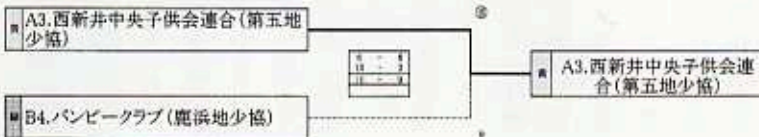


平成25年2月11日(月)
竹の塚スイムスポーツセンター



▲午前優勝 西新井中央子供会連合

決勝戦



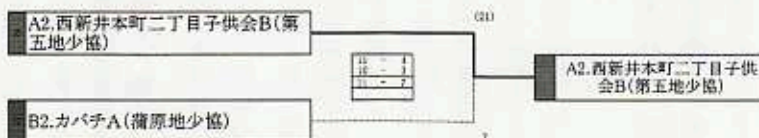
午後対戦表

予選リーグ

Aブロック		A1.カバチB(蒲原地少協)	A2.西新井本町二丁目子供会B(第五地少協)	A3.舎人日の出子ども会(舎人地少協)	A4.さくらキッズA(第十五地少協)	勝数	得点	失点	差	順位
A1.カバチB(蒲原地少協)		×	1 - 12 2 - 11	×	0 - 11 11 - 12		29	66	▲ 37	4
A2.西新井本町二丁目子供会B(第五地少協)	◎			◎	12 - 3 11 - 2	3	70	20	▲ 50	1
A3.舎人日の出子ども会(舎人地少協)	◎	×	3 - 12 3 - 11		6 - 11 7 - 10	1	45	55	▲ 10	3
A4.さくらキッズA(第十五地少協)	◎	×	2 - 12 3 - 11	◎	11 - 9 11 - 10	2	47	50	▲ 3	2
勝敗		勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点

Bブロック		B1.さくらキッズB(第十五地少協)	B2.カバチA(蒲原地少協)	B3.HOZUKA,boys&girls(保塚地少協)	B4.JLサークル【オブザーバー参加】	勝数	得点	失点	差	順位
B1.さくらキッズB(第十五地少協)		×	9 - 11 11 - 12	×	7 - 11 8 - 10	1	50	55	▲ 5	3
B2.カバチA(蒲原地少協)	◎			◎	11 - 1 11 - 1	2	63	45	▲ 8	2
B3.HOZUKA,boys&girls(保塚地少協)	◎	×	11 - 11 11 - 11		3 - 9 3 - 9	1	38	52	▲ 14	4
B4.JLサークル【オブザーバー参加】	×	◎	8 - 9 9 - 10	◎	8 - 9 9 - 10	2	50	39	▲ 11	1
勝敗		勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点	勝敗	勝 - 失点

決勝戦



▲午後優勝 西新井本町二丁目子供会 B



▲スタッフのみなさん、ご苦労さま

仲間づくりと子ども会活動 異年齢の仲間集団の意味するもの
 東京都地区子ども会育成研究協議会

全国子ども会連合会、東京都子ども会連合会、新宿青少年団体連合会主催の東京都地区子ども会育成研究協議会が十一月十日(土)新宿区戸塚地域センターにおいて開催されました。

今回の研究テーマは、「仲間づくりと子ども会活動：異年齢の仲間集団の意味するもの」でした。足立区からは、野辺会長、鈴木(春)副会長、大林副会長、日高会計、鈴木(健)会計、辻村研修



部長の六名が出席いたしました。

開会式において、東京都地区子ども会連合会の表彰式があり、足立区では優良団体(子ども会)で鹿浜地少協椿子ども育成会(代表者 秦一浩)、優良団体(ジュニア・リーダー組織)で淵江地少協(代表者 山本輝夫)、個人(指導者・育成者) 扇地少協鈴木春男さんが受賞されました。

基調講演では、東京都ドッジボール協会副理事長の長谷川厚夫氏による「子ども会活動における安全について：球技活動の場合」というテーマで行われました。VTRを観ながら足立区のドッジボールチームが全国大会を目指す姿を通じて、監督の厳しい指導や子ども達の成長する姿、怪我による挫折との戦いを克服して、子ども達が団結していく活動が語られました。

その後、四分科会にわかれ討議が行われました。
 第一部会テーマ
 子ども会活動と安全対策



▲表彰された優良団体、指導者・育成者のみなさん

記より発表され、助言者より講演をいただきました。

そして、参加者全体の共通認識を確認しました。

閉会後に行われた懇親会では、和気あいあいにお互いに日頃語れない苦労話に花が咲きました。また、地域による組織の違いや実行している内容などを聞くことができ、大変有意義な会となりました。

第一部会の報告 野辺 陽子

第一部会は、基調講演を受けての話し合いということで、講師の長谷川先生のお話の中の球技、特にドッジボールの事故について各区の現状が発表されました。

さぞかしドッジボールでのつき指などが多いであろうと予想していたにも関わらず、意外に少なく拍子抜けしてしまっ程でした。

各区とも年中行事の一つにドッジボールは入っていましたが、他の行事との比較で安全共済会の保険を使う頻度はさほど多くはありませんでした。反対に増加傾向にあるのは、子どもの怪我より育成者の事故で、参加者全員が異口同音に訴えていました。また、最近の傾向としては、説明責任の分野

第二部会テーマ
 異年齢の子ども集団の意義と重要性について考える
 第三部会テーマ
 地域にある各種団体との連携を図る
 第四部会テーマ
 子ども会のレクリエーション・ゲームの体験

というテーマで各部会とも活発に討議が行われました。
 全体会では、各部会の内容が書

及び行事のお知らせなど細部にわたって注意事項を書き込んだり、行事の前の説明などをしっかりとしないと納得しない親が増えてきているということがありました。こういった現象も、ゆとり教育の時代の弊害なのでしょうか？ 子ども会の行事もいろいろな保護者がいるということを前提に、細心の注意を払わなければならない時代になったという感を強くいたしました。

第二部会の報告 辻村 宣明

一「異年齢の集団の特徴は何か」
二「子ども会で企画して

みたい活動」

三「子ども会以外で

異年齢の集団は何か」

四「就職後転職するのはなぜか」

五「子ども会と学校、家庭、その

他の習い事との違いは何か」

六「異年齢集団の活動の

良い点は何か」

等について※KJ法を用いてそれぞれの意見を持ち寄りグループ化して考えてみました。

そうしてみると、私たちの暮らしている社会そのものが異年齢集団であり、子ども達に早い段階か

ら異年齢集団の中での経験を積ませていくことが、やがて成長し、大人になって社会に出たとき、ストレスなくこの階層構造の中で自分の居場所を見つけられるのではないかと、という方向で意見をまとめました。

私たちの子ども会活動は、そのための重要な役割を担っているのだという、再認識を得られた研究会でした。

※KJ法：文化人類学者川喜田二郎氏の考案した創造性開発技法の一つで、考案者の頭文字をとって名づけられたもの。紙切れ法ともいう。意見やアイデアを一つずつ紙片に書き、それらをバラバラにして広げ、虚心に眺めながらアイデアやヒントを発想させていく方法。

第三部会の報告 大林 英夫

次の三点について話し合いが進められました。
一「自分達の地域には子ども会の外にどんな子どものグループがあるのだろうか？」

これについては、スポーツ団体、合唱団、お稽古事などがあげられました。

二「子ども会を取り巻く地域の大人の団体はどんなものがあるだろうか？」

まずあげられるのが、町会・自治会・青少年対策地区委員会・小学校PTA・中学校PTA・青少年委員会・商店会・地区少年団体協議会・小学校開かれた学校協議会・中学校開かれた学校協議会などでした。

三「これからの子ども会活動を進めていくのに最も大切にしていかなければならないこと？」

すべての人々と仲良くやっていたかなければならないことは確かだと思うが、やはり一番身近な町会・自治会と協同していかなければならないと思う、という意見で全体が一致しました。

子ども会の成り立ちは、町会型、独立型とあるが、どちらにしても町会・自治会とうまくやっていないければ、本当の意味での地域の子ども会になり得ないということに、行き着きました。

第四部会の報告 日高佐和子

子ども会は仲間作りからのスタートです。その仲間作り、人間関係作りをすることに役立つのが、

「ゲームやソング」です。

楽しみながら、遊びながら子ども会活動で生かしているというテーマの部会でした。

今回は「折り紙」などを使って自分達で、作って遊ぶことを中心に行われました。

子ども達にとって「折り紙」はただ折るだけではなく、

一 物事に心を込める態度を育てる

二 物事に順序があることを教える

三 折り目正しい人格を教える

四 目と手の共用による運動感覚を発達させる

などの弊の効果があると言われています。

そのことを頭に入れながら折り紙工作が始まりました。紙とクリップ、そして輪ゴムを使って、簡単な手品を始めとし、紙飛行機、ヘリコプターなどを作り、飛ばしてみました。

「折り紙を親と子で折りながら、物を創り出す楽しみを育てていくことが出来るとしたら、一枚の小さな紙の持つ意味は実に大きいと言えます」と講師の先生の言葉でした。

全国子ども会育成中央会議・研究大会 報告

平成二十五年二月十五日(十七日)、鳥取県米子市で全国子ども会育成中央会議が開催されました。第一日目は開会式・表彰式・記念講演・活動発表が米子コンベンションセンターで行われました。開

会式は国歌斉唱に始まり、全子連会長の丸山康昭様による主催者挨拶、表彰式では指導者・育成者の個人・団体に賞状が授与されました。記念講演は境港市観光協会会長 長根田知身氏による「妖怪による町おこし」と人、地域をつないで」というテーマで行われました。水木しげるさん原作の「ゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪などのブロンズ像が並ぶ「水木しげるロード」を、中国地方を代表する観光地まで育て上げた知られざるエピソードなどが紹介されました。第二日目の分科会は八つに分かれそれぞれで熱い討論がかわされました。足立区少連協からは、第一分科会・第四分科会・第五分科会・第六分科会に参加いたしました。以下各分科会の討議内容のまとめです。

第一分科会「人と人をつなぐ活動を軸とした子ども会活動」 小野田みよ子

少子高齢化時代と言われてから久しいが、最近の子ども達は、遊びが足りない。チャレンジしない。話し合いができない。子どもの欧米化とまで言われている。しかし、これらのことは大人達にも言えることで、大人の心が豊かでないと子どもは豊かに育てられない。地域作りは大きなテーマで、子ども同士、大人同士、また、子どもと大人の関わり方の工夫が大切である。



▲足立区少連協からの参加者

育成者としては、異年齢集団を繋ぐために、地域ジュニアを育てなければならぬ。そして、地域における様々な体験活動ができるよう場の提供に力を注いで欲しい。

第四分科会「子ども会とジュニア・リーダーを結ぶ養成と活用」 鈴木 春男

最初に、信州大学河村隆准教授により山口県の事例を基にしたジュニア・リーダー養成についてのセミナーがありました。事例発表では、米子市ジュニア・リーダーズクラブ神原裕紀さん(広島県シニア・リーダーズ・クラブ会長)の発表がありました。年間活動回数が八十回を超えると、いう活発な活動を行っている反面、後継者が育たないという悩みなどが報告されました。

続いて、山口市子ども会シニア・リーダーズ・クラブ鶴本若葉前会長の事例発表がありました。社会人となった今もジュニア・リーダー活動で培ったすばらしい経験が役に立っていることや、これ



▲読谷村と米子の子どもの踊り

からもジュニア・リーダーをしっかりと養成していきたいとの話がありました。

最後に、グループ討議で、各地のジュニア・リーダー養成方法、予算、問題点の違い等が活発に話し合われました。私達にとっても大変参考になることが多く、今後の活動に是非、生かしたい有意義な分科会となりました。

第五分科会「安全・安心の絆を深める安全教育の推進」 野辺 陽子

講師は、聖徳大学神谷明宏准教授で①安全教育の位置付けと効果的な展開方法②潜在危険の予知・予測に役立つプログラムの立案③安全教育実践のために地域の人材をどう発掘・活用するか、という

三本立てで話が進められ、最後の
一時間はKJ法で全員が参加し、
最後の発表を五つの班で各々行っ
た。中には都子連に対する要望な
どもあり、大変盛り上がりを見せ
た討議となりました。

**第六分科会「子ども会活
性化と会員増強方策の確
定」**
大林 英夫

子ども会活性化のための活動内
容とその方法を構築しよう。

①子どもの興味・関心を活かす活
動種目・内容を考えよう。

②子どもが主役となる運営手順や
方法など条件整備を協議しよう。

①の副題に対して

*単なるバス旅行でなく、公共交
通手段を使い目的地の往復を行う
(企画運営を子ども達に任せる)。

*ミニキャンプ等で飯ごう等を用
いてご飯を炊き、実体験をさせる。

*多少の危険要因は発生するが、
学校、行政がさせない行事、活動
をあえて行う(木登り、マキ割、
マキを使い炊飯、キャンプファイ
ヤー等)。

*学校施設をオリエンテーリング
方式で、新一年生を引率し、子ど
も会の存在をアピールする。

②の副題に対して

*子ども会定例会を行う。

*子ども会日誌等の活用。

*大人が準備し、三択で子どもに
選ばせる。

*リーダーの育成。

まとめとして、講師の小菅知三
先生が

①(生活、人間関係、共同、自己

決定、感動)体験を通して自主性
を養うとともに「生きる力」を持
った子どもを育むように努める。

②子どもがのびのびと活動に取り
組める環境作りに努める。

結びに、テーマ「子ども会活性
化と会員増強方策の確定」に沿え
るように若い世代の保護者、リー
ダーを参画させて地域活動を頑張

ってほしいとのお言葉をいただき
ました。

以上、わずか二泊三日でしたが、
全国の子ども会関係者との意見交
換で、皆さまの努力や悩み、現実
とのギャップ等についての話し合
いのできたことを感謝するととも
に大変有意義な時間を過ごせたこ
とを報告いたします。

少連協日帰り研修旅行

総務部長 元井 一壽

去る、平成二十四年十二月二
日、平成二十四年度少連協日帰
り研修旅行を開催いたしました。

当日は、野辺会長、大谷博信
青少年課長をはじめ総勢四十一

名の方に参加をしていただきま
した。

今回の研修先は国立歴史民俗
博物館と加会利貝塚を見学しま
した。

午前八時、集合場所を出発、
京葉道路に乗り、一路千葉県佐
倉市にある国立歴史民俗博物館
を目指しました。

当館は、古代から現代まで六
つの展示室と企画展示室とで構
成されており、ゆっくり観覧す
ると一日かけても足りない規模
の展示物で展開されており、今
回皆様は、駆け足ですべてを回
るか、時代を絞って詳しく観覧
するか、どちらかを決めて回ら

れたようです。

その後、成田山境内で昼食を
取り新勝寺は自由参拝の形を取
りました。

午後は、加会利貝塚を見学、
この貝塚は世界で一番の規模を
有するとの話を聞いたり、学
芸員が自身で作った、古代の住
居の説明を受けました。

帰路は、木更津でお土産を買
い、東京湾アクアラインをとお
り足立区に戻りました。

今回の研修旅行では、古代か
ら日本の国に住み脈々と生活を
営んで来た、私たちの祖先の歴
史の積み重ねや、その時々の文
化の素晴らしさにふれることが
出来、大変有意義な一日だった
と思えました。



▲国立歴史民俗博物館にて

江東五区少年団体代表者 会議についての報告

副会長 山本輝夫

開催日 十月二十七日(土)

午後一時～六時

会場 亀戸文化センター

参加者 副会長 山本輝夫

副会長 鈴木春男

書記 小野田みよ子

青少年課伊藤勝美係長

青少年課 小林千絵美

各区の出席者数

江戸川区 五名

葛飾区 四名

江東区 四十名

墨田区 五名

足立区 五名

合計 五十九名

議題

第一分科会テーマ

「ジュニアリーダー

養成について」

最近を受験やスポーツクラブなどで多忙な子ども達を、まずは講習会に参加させるために、育成者ほどのような活動を行っているのか？ また、リーダーになってからの地域活動(単位子ども会を含めて)に参加させるために育成者

が行っていること、ジュニアリーダーOBの活用はどのようにしているのか。各区のジュニアリーダー養成方法や活動努力を意見交換し、今後のジュニアリーダー養成に役立てたい。

第二分科会テーマ

「子ども会育成者の人員不足

・養成と活動について」

子ども会の形は様々であるが、人手不足なのは各区とも問題になっているのではないだろうか。地域のことは関係ないと考えている大人をどのような方法で、育成者として参加してもらっているのか。また、育成者一人ひとりのスキルを上げるために行っていること等の意見交換を行い、ジュニアリーダー同様に役立てるとともに育成活動についても考えたい。

新田ジュニアクラブ 野外キャンプ

新田地少協 山田 静

昨夏、七月二十一日(土)二十日(日)、宮城ゆうゆう公園で新田ジュニアクラブの中高生十六人が参加して、ステップアップ講習を兼ねた野外キャンプを行いました。雨模様の中、心配しました



が、飯ごう炊さん、キャンプファイヤー、テントを張ったの宿泊、講師をお願いしてのゲーム練習等、予定通りに行うことができました。カマド作りから始め、火をおこし鮭のホイル焼きとクリームシチューを作りました。新田地少協では毎年学校で宿泊キャンプを行っていますので、なかなか手なれた様子でおいしくいただきました。

昼間のステップアップ講習でキャンプファイヤーの意義やゲームの流れ、緩急の付け方など詳しく教わりました。自分たちで木を組み、夜にそなえます。

あたりが暗くなりキャンプファイヤーの始まりです。火の神が入場しトーチの火を点火、「燃える

よ燃える」の歌声とともに火が大きく燃え上がりました。ファイヤーマスターのもと、ゲームや歌、ダンスで盛り上がりました。

キャンプファイヤーが終わると、各班にわかれ、自分たちが昼間苦労して張ったテントで就寝です。でも、夜遅くまで楽しそうな話声が聞こえていました。

朝は五時半に起きてテントの撤収、ラジオ体操、朝食のホットドック作りです。アルミホイルで巻いたパンを牛乳パックに入れて火をつけます。少し焦げ加減でしたが、みんなで食べれば、何でもおいしいのです。

その後、夏休みの地少協キャンプのオリエンテーションの下調べをして解散しました。

リーダーとして、一歩前に進めたキャンプ体験でした。

編集後記

今回は、各所で研修会が行われた報告を取り上げました。

子ども会の「活動の活性化や会員の増強」が叫ばれています。皆様の地域の子ども会での話し合い、また、諸活動に少しでもお役に立てれば幸いです。(調査広報部)